

科目名	生涯学習論特講	担当者	ユガ 古賀	トオル 徹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>「生涯学習論特講」では、生涯学習社会（時代）を迎えたといわれる現代社会において、「教育」（学習）をどのようにとらえ、展開していくことができるのか。現代社会において、様々な問題解決のために必要とされる専門的知識や基礎理論とはどのようなものであるか。以上の問題について考え深めていくことを目的としています。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 現代社会における「生涯学習」の意義や特質を理解する。（知識・理解） 諸外国や歴史的な文書、各種統計データを読み取り、活用する研究技能を身につける。（思考/技能）</p> <p>【行動目標（SBOs）】 (1)「教育学」の考え方、研究方法の特徴を理解し活用できる。 (2)「生涯学習社会の到来と課題」について説明することができる。 (3)スウェーデンの政策を理解し、日本の生涯学習政策の課題を抽出し解決策を提案できる。 (4)現場の取材を行い質問事項等を考え、リサーチクエスションにつなげていくことができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 関連する文献や情報を集める（「教育」だけではなく「少子高齢化」に関する書籍等を読み、理解することが必要となる）。そのために 25 時間以上、提出時のレポート往復（レポート指導・再提出のやりとり）に 20 時間以上を目安としている。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートで完結するが、自主的な意欲をもとにする「生涯学習の実践現場」を考察の対象とし、また取材を実施すること（フィールド・ワーク）と、それをレポートとして構成し、提出する作業（修正等の往復も含む）は、能動的であり、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」となる。メールや manaba folio 上での質問も受け付けている。</p> <p>【学修方略（LS）】 レポート</p>		
スケジュール	<p>レポートは前期（9月）・後期（1月）と提出期限が設定されている。締切前であれば manaba folio 上の添付で往復をする。期限を超えた場合、メールで往復をしたい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	
	平常評価	%	
履修者への要望	<p>前提として、どのような「教育」「学習」がいま求められているのか、これまではどのようなものが求められてきたのかという教育観・学習観を理解しておいていただきたい。「教育とはこういうものだ」と誰もが漠然と語ることはできるが、その教育実践を生み出した理論や歴史を深く知っておくことで、その議論は“漠然”としたものではなく深まっていく。教材①は教育学全般を理解することに役立つ構成となっている。そこに登場する人物像や概要を調べて理解を深め、理論等の用語を操ることができるレベルへ向上していただきたい。また、関連することとして、「発達」「教育」「教授」「学習」といった言葉の意味を調べ、文字に分解しての語義や、翻訳前の原語、あるいはさらなる他国言語での表現などを調べていくなど、自らの興味を深める活動、知識の幅を広げる活動をしていただきたい。そういった活動自体が「学習」や「発達」と重なってくると考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 勝野正章・庄井良信 教材名： 『問いからはじめる教育学』（有斐閣ストゥディア，2015年） ISBN:978-4-641-15014-0 1,800円+税
	この教材は、「教育学」全般について、基礎から学ぶ人のためにと編まれたテキストである。生涯学習に限定しての専門書ではなく、その意味では、やや初歩的な内容となっているが、本講義で構想する「学校教育と生涯学習とをネットワーク的に理解する教育学的な視点」という学びのためには十分に意義がある。生涯学習については、後半の第12章が該当するが、前半で「教育観」や「教育の歴史」、「（学校で）学ぶことの意味」がわかりやすく説明されている。この部分を受けて「学校教育の外の学習」である「生涯学習」や「社会教育」について、より考え深めることができる構成となっている。この教材の「構成」自体が本講義のねらいと合致するので、より広い学びのために読み進めていただきたい。
参考図書	麻生誠・堀薫夫『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会，2002年 ISBN:978-4-59-511360-4
履修上のポイント	リポート課題(1)では、教材の内容をよく読み、いま求められる「学び」（学習）とはどのようなものであるのかについて理解を深めること。参考図書にあげたもの以外でも入門書的なものを選択して読み、比較考察するとさらに学び深めることができる。 リポート課題(2)では、「書いてあること」の実践をみることで再確認と、実践をみることで感じとることのできる課題（解決すべき問題点）を意識してもらうことをねらいとしている。
レポート課題 1	教材の第12章を中心によく読み、生涯学習の理念を説明し、これからの学びの在り方について論じなさい。テキストの前半部分に記される「教育とは何か」という問い（教育学全般に関する記述）も理解した上で、「生涯学習」の意義や位置付けをおさえて論述すること。また「学習で身につける」ということに関する自分の考え（コメント）も記してください。 留意点： 教材の論述内容をよく読んで、学習者の習得する力をどうとらえようとしているのか、著者の主張・示唆をまとめること。
レポート課題 2	実際の「生涯学習」の場（博物館・美術館・生涯学習センター・市民活動支援センター等）を訪問して、そこでどのようなことが目指され、何を求めて参加者が集まり、どのような学習が行なわれているか等、見てきたことを報告してください。 留意点： ここでの活動は、“実践の場”を取材することでフィールド調査やインタビュー調査の方法を習得することを目的としています（取材場所は一か所でも複数でもよい、複雑な手続きや許可が必要となるような場は避け、一般的な市民活動の場となる施設等がよい）。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 小澤徳太郎 教材名： 『スウェーデンに学ぶ「持続可能な社会」』（朝日新聞出版，2006年） ISBN:978-4-02-259892-9 1300円+税
	福祉国家としての「スウェーデン」が「持続可能な社会」のトップとして評価される社会の仕組みが描かれた書籍である。その多くは環境問題と経済成長を対象とする論述であるが、そこからスウェーデン社会における人間観を読み取ることもできる。スウェーデンやフィンランド等の北欧社会は福祉国家として知られ、資源は持たないが国民の「学習」意欲やそのための支援・環境整備が充実していることが特色の一つである。その「生涯学習」社会を実現させている背景として本教材を読んでいただきたい。
参考図書	谷沢英夫『スウェーデンの少子化対策』（日本評論社，2012年） ISBN:978-4-535-58608-6 3200円+税
履修上のポイント	スウェーデンや北欧の教育（生涯学習）に関する書籍や各種の辞典を読んでおくことから始めると理解しやすいかと思う。課題(1)のねらいは、「少子高齢社会」における教育（学習）のとらえなおしについて考えるということである。少子高齢化は現代社会における重要な課題であるが、スウェーデンでは社会の取り組みとして日本と異なる結果を出している。その差違と変化の可能性を考えていただきたい。課題(2)では、「生涯学習」という言葉（名称・表現）にも含まれている「学習」という概念が、なぜ（いま）求められるのかということを考えていただきたい。
レポート課題 1	教材の第1～2章（19～72ページ）を読み、まず「少子高齢社会」がどのような問題を含むのかを整理すること。次にそこにはわれわれが、“生活者”というアクターとして参加することになるが、そこにおいて「生涯学習」という個人の学びがどのような意味をもつのかについてまとめなさい。後者については、直接本書の中には記されていないので、自身の考えや他の文献から学んだ成果を反映させていただきたい。 留意点： 課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。
レポート課題 2	第7～9章（193～279ページ）に記されていることは、「福祉国家」という選択肢の可能性と、そのための行動（政治）の問題である。スウェーデンの政治情勢を整理し、どこが「生涯学習」社会の実現に寄与しているのか、読者として読み取ったことをまとめなさい。 留意点： 第9章の記述を中心にまとめてもよい。